

答申案に係る意見集約表

資料3-2

NO.	項目	小項目	該当箇所	意見	集約意見
6	3 まちづくりの展望	(1)本格的な少子高齢・人口減少社会への対応	P4 (1)6行目 「子どもを生み育てられる環境」	結婚してこ子どもが生まれるので、結婚に関する表現も必要ではないか。	少子化対策として、誰もが希望を持ち、安心して妊娠、出産、育児ができる環境づくりは非常に重要であり、これらに対する支援を一層充実すべきである。 特にそのきっかけとなる「結婚」についても盛り込む必要がある。
14	3 まちづくりの展望	(1)本格的な少子高齢・人口減少社会への対応	P4 (1)6行目 「安心して子どもを生み育てられる環境を整える」	女性の社会進出とは別に子育ての環境が整っていない。 企業誘致や地元企業の育成も重要であるが、結婚、出産などに対する直接的な少子化対策が先決ではないか。	
15	3 まちづくりの展望	(1)本格的な少子高齢・人口減少社会への対応	P4 (1)6行目 「市民が生き生きと学び、働くことができる環境づくりや安心して子どもを生み育てられる環境を整えるなど、まちの活力の創出と次代を担う人材の確保など中長期的な対応」 P7 (4)6行目 「若い世代はもとより、女性やシニア世代が活躍しやすい環境づくりを進める」	旭川市は離婚率が高い傾向にあると聞いているが、経済基盤が弱いため、安心して、結婚、出産できない現状もある。 6次産業など、地場産業の育成により、雇用促進し、経済基盤の安定化が必要。コールセンターなどのように契約社員ではなく、正社員として働ける環境の整備が重要である。	
35	4 まちづくりの基本的考え方	—	全体	「4 まちづくりの基本的考え方」だけ読むとよく分からないと言った感じである。 「5 目指す都市像」と「6 都市像の実現のために」と「4 まちづくりの基本的考え方」との関係が分かり難い。 さらに、骨子の「3 まちづくりの展望」の「現状と課題」には、明るい話題も書いてあるが、基本構想にそれらが載せられないということであれば、工夫が必要だと思う。	第8次総合計画は、市民と行政が「目指す都市像」を実現していくための羅針盤となるものであるため、「まちづくりの展望」、「まちづくりの基本的考え方」及び「目指す都市像」について、重複した表現などを整理し、市民にとって分かりやすい計画とする必要がある。
36	4 まちづくりの基本的考え方	—	全体	全体の表現として、課題など本市が抱える問題点から出発しているので、楽しいものになっていない。マイナスの課題は書いてあるけれど、本市の良いところがあまり打ち出されていないのではないか。	
37	4 まちづくりの基本的考え方	—	全体	(1)これまでのまちづくりの歩みは不要なのではないか。 今までのことを振り返るより、前を見て話をすると明るいものになるのではないか。	
38	4 まちづくりの基本的考え方	—	全体	「まちづくりの基本的考え方」は、基本条例の前文を踏まえた表現としてもよいのではないか。 ここでは、現状と課題がイントロダクションとなっているが、それらを脱却するために必要な手段(これからどうすべきか)をポジティブに表現した方がよいのではないか。 この文章は12年後も生きることになることを意識することも必要。	
39	4 まちづくりの基本的考え方	—	全体	この章は、「これからのまちづくりとはこういうもの」という定義、方向性を示したものであり、内容的には違和感を感じないが、タイトルが内容にマッチしていないのではないか。	
40	4 まちづくりの基本的考え方	—	全体	「4 まちづくりの基本的考え方」から、各基本目標につながっていくことから、ポイントを絞り、わかりやすい表現としてはどうか。 「3 まちづくりの展望」→「4 まちづくりの基本的考え方」→「5 目指す都市像」へと、スムーズにつながるよう、市民にとってわかりやすく、表現の重複を抑えた構成にするなどの工夫が必要ではないか。	
41	4 まちづくりの基本的考え方	—	全体	ここでは課題設定に対しての12年間の目標や手段などを掲げている部分であるが、「3 まちづくりの展望」をもっと踏まえた書きぶりにしても良いのではないか。	

42	4 まちづくりの基本的考え方	—	全体	もっと、簡潔で良いのでは。 全体のコンセプトとなるようなワードを用い、端的に表現してはどうか。 本市の魅力については、9ページの3,4行目「本市の地域資源である豊かな自然や都市機能が調和した旭川らしい暮らしの充実」という表現に集約されているのではないかと。	
43	4 まちづくりの基本的考え方	—	全体	「3 まちづくりの展望」を踏まえた上での今後のまちづくりの考え方がこの部分の位置付けとなっており、原案とおりで問題ないのではないかと。	
44	4 まちづくりの基本的考え方	—	全体	「3 まちづくりの展望」では、全国的に共通する課題、本市が抱える課題の両方が記載されており、「4 まちづくりの基本的な考え方」では、その両方に対しての本市の基本的な考え方が表現されていることは良いかと思う。	
45	4 まちづくりの基本的考え方	—	全体	「4 まちづくりの基本的な考え方」は、「3 まちづくりの展望」(1)～(5)を受けた形で表現されていることからこのままで良いかと思う。	
47	4 まちづくりの基本的考え方	—	全体	基本的な考え方の内容と、都市像の内容がかけ離れている。4と5の順番が逆か、内容の問題なのか、順番の問題なのか、分からない。 4と5であるが、この都市像を実現するための考え方が先に示されるべきではないか。	
46	4 まちづくりの基本的考え方	—	全体	これらに表現されている内容は、もつともなことであり、否定するものではないが、読み手側からするとわかりにくさを感じる。 「4 まちづくりの基本的な考え方」の前段4行は、「3 まちづくりの展望」のそれぞれの課題認識や方向性をまとめたものであり、表現が重複しているような印象を受け、考えを強く押し出したい思いとは逆にぼやけてしまっている。 また、「3 まちづくりの展望」(1)～(5)を踏まえた上、「4 まちづくりの基本的な考え方」の5行目以降の「考え方」につながっていく方が自然な流れであり、読む側からしても分かりやすいのではないかと。	
58	6 都市像の実現のために	基本目標1	基本政策2	「質の高い医療や救急医療の確保に取り組みます。」ではなく、質が落ちないようにどうするか、維持できるかということが重要である。	超高齢社会の中で、今後、医療ニーズがますます高まっていくことが考えられる一方、救急医療の現状を踏まえ、医療の質を確保しつつ、救急医療の受入体制の水準を維持していく視点も必要である。
63	6 都市像の実現のために	基本目標2	基本政策5	世代間交流など、生涯学習が未来の担い手である子どもの教育にもつなげていく視点が若干足りないのでは。	人口減少、少子高齢社会においては、あらゆる世代が協力してまちづくりに取り組むことが重要であることから、シニア世代の活躍の場を広げることや世代間交流などにより、生涯学習の推進や未来を担う子どもたちの健全育成につなげていく必要がある。
68	6 都市像の実現のために	基本目標3	基本政策6	地域の魅力の発信ということについては、地域の資源を生かすということに加え、「環境の変化に注視しながら」という視点も必要ではないか。	産業は、市民所得や税金など、市民や市の収入の根幹となるものであることから、本市の特徴や個性などのプラス面を強調していく必要がある。
69	6 都市像の実現のために	基本目標3	基本政策6	都市像にある「世界にきらめく」ということについては、産業・交流の分野でしか表現できないと思うので、ここで強く主張した方が良い。	
70	6 都市像の実現のために	基本目標3	基本政策6	産業については、市民の所得にかかわるものであり、また、税金などの面で市の収入の根幹となる部分であることから、力を入れるべき分野である。	
71	6 都市像の実現のために	基本目標3	基本政策6	基本政策の文言については、旭川市でなくても通じる文言である。もう少し旭川の特徴が見えてくる文言になればと思う。基本政策なので余り具体的に書けないと思うが、例えば地場産品をどこに売りたいといったように、特に力を入れたいというものについて具体的に表記されていれば良い。	

72	6 都市像の実現のために	基本目標3	基本政策6	基本政策6について、2つに分けても良い。例えば、農業等の既存産業の維持、発展と、今後の12年を見据えた新たな本市の産業のあるべき姿とは、政策を分けて考えることが必要ではないか。 本市の産業の維持、発展させていくことについて、今後の12年についてはこれまでの10年とは明確に違うということや、本市の産業をどのようなかたちで発展させていくとしているのか、積極的に表現することはできないか。 もう少し具体的に、明るい兆しを明確に打ち出した方が良い。	
100	6 都市像の実現のために	基本目標5	基本政策13	組織の「簡素化」という表現があるが、「効率化」の方が適切ではないか。 市民ニーズの多様化、人口減少が進む中、組織のコンパクト化が必要との考えは重要であると考えるが、単に削減するのではなく、場合によっては機能の充実も必要である。	人口減少が進む中、市役所組織の簡素化を進めていく考えは重要であるが、単に職員を削減するのではなく、市民ニーズや社会情勢によって求められる組織の強化を図るなど、効率的な組織づくりを進めていく必要がある。
8	3 まちづくりの展望	(1)本格的な少子高齢・人口減少社会への対応	P4 (1)6行目 「子どもを生み育てられる環境」	「子どもを生み育てられる環境」だけでなく、「移住」に関することも記載すべきではないか。	人口減少対策として、地震や台風などの自然災害が少なく、自然や田園と都市が調和した本市の魅力や優位性を大都市の高齢者や若者に積極的にアピールするなど、移住を促進していくための取組が求められる。
9	3 まちづくりの展望	(1)本格的な少子高齢・人口減少社会への対応	P4 (1)8行目 「誰もが住み慣れた地域で生きがいを持って」	「移住してきた人も住みやすい」という表現を含めた方が良い。	
13	3 まちづくりの展望	(1)本格的な少子高齢・人口減少社会への対応	P4 (1)7行目 「次代を担う人材の確保などの中長期的な対応」	若者や高齢者などの移住定住の視点を加えてはどうか。	
47	5 目指す都市像	—	全体	「目指す都市像」は「目指すまち」の意味であるのなら、旭川が目指す都市像に違和感がある。世界にきらめかなくてもいい。「世界にきらめく」とは一体どこからきているのか。	「世界にきらめく」ためには、アジア諸国をはじめ、様々な国との人的・物的な交流が活発に行われ、多くの外国人観光客が訪れるなど、賑わいを生み出し、地域が活性化していくための取組が求められる。
48	5 目指す都市像	—	全体	「拠点」とあるが、中核ではないか。拠点では都市規模が小さいイメージがある。	本市を代表する観光資源である旭山動物園は、すでに国内外の多くの人々の注目を浴びており、このような地域資源を市民と市が磨き上げることで、12年後には「世界にきらめく」状態となることを表していることから、「目指す都市像」の表現については良いと考える。
49	5 目指す都市像	—	全体	「世界にきらめく」に違和感を感じる。 世界にきらめくためには、アジアだけでなく世界全体をターゲットにして、経済が成長し、観光など交流人口が増えることが必要。 この都市像を掲げるためには、今後審議を予定している基本計画などにおいて、対応する施策が盛り込まれていることが必要。	
50	5 目指す都市像	—	全体	基本的には、そのまちに「住みたい」、「行ってみたい」と思わせるようなまちであるべきだと考えるが、そういった部分がこの都市像から感じ取れるか。	
51	5 目指す都市像	—	全体	例えば、旭川の大きな資源である旭山動物園は、既に「世界にきらめく」状態となっていると思う。他にも様々な地域資源があり、それらを磨き上げるにより、12年後、「世界にきらめく」状態となっていることを目標とし、都市像にすることは良いと思う。 ただし、そこに向かうために必要な施策が伴うことが条件である。 →(各委員)意見に賛同	
22	3 まちづくりの展望	(4)地域経済の基盤強化とグローバル化の対応	P4 (1)7行目 「次代を担う人材の確保などの中長期的な対応」 P7 (4)2行目 「地域特性や資源を生かし、地域に根ざした各種の産業の充実を図り」	災害が少ないという地域特性を生かして、企業誘致などを積極的に進め、雇用の拡大する観点が必要ではないか。 (3)や(4)などに示されている地域特性や取組などを生かすことが、(1)の人口減少の対策となるものとする。	多くの市民が大地震などの大規模な災害を経験したことがないまちであるからこそ、市民の防災意識を高め、万が一の災害発生に備え、市民と市が一体となって防災対策を強化していく考え方が重要である。

25	3 まちづくりの展望	(4)地域経済の基盤強化とグローバル化の対応	P6 (3)5行目 「建築物や橋梁の耐震化の促進や地域防災力の向上を図るなど、市民の暮らしへのリスクを最小限にとどめるための危機管理体制を強化し、安心につながる安全なまちづくりを進めていくことが重要です。」	地震が少ないという本市の地域特性を積極的にアピールし、企業誘致や若者の呼び込みなどを進めることも必要ではあるが、災害とは地震だけでなく水害や火災など人災もあり、また、地震についても大規模地震の発生する確率がこれまで低かったというものであることから、手放しでそれを宣伝材料にすることは危険である。構想の中に表現されている市民や行政などが一体となり、万が一の災害発生に向けた対策強化が必要であるという考えは重要である。	
90	6 都市像の実現のために	基本目標4	基本政策10	自主防災組織については、作って終わりではいけない。今の時代、防災を通じた絆づくりが、唯一地域の絆を取り戻す方策となりうる。	
91	6 都市像の実現のために	基本目標4	基本政策10	以前、本州に住んでいた時には、毎年9月1日の防災の日に子どもと親と一緒に防災訓練を行っていた。旭川へ移り住んで、台風の時の学校の対応など、市民の防災意識が不足していると感じることが多い。今後は、防災意識を高めていく必要があるのではないのか。	
92	6 都市像の実現のために	基本目標4	基本政策10	以前、地震が少ないことは担保にはならないという話があったが、地震がないことを強調することは危険ではないか。 また、ホットラインについて、腕時計型の発信器は腕が麻痺している人は使えないので、単にモノを導入するのではなく、それを有効に使うために必要な人を送り込むことが重要であり、旭川としてもこれからそういう意識でやっていかなくてはならない。	
93	6 都市像の実現のために	基本目標4	基本政策10	防災意識を培っていくためには、まず、その土地に起きた災害などの歴史を学ぶことが重要である。	
94	6 都市像の実現のために	基本目標4	基本政策10	「総合的な防災力の強化を図る」とされているが、大雪や地震等に対してどのように対応していくか、具体的に盛り込んでいくことが必要ではないか。	
101	7 都市構造の方向性	全体	全体	「都市構造の方向性」については、具体的に旭川市のイメージができ、非常に良い。	将来にわたり市民の暮らしを支え続ける都市を構築するためには、集約型都市構造を目指し、都市のコンパクト化を計画的に進めていくことが重要であり、今回、新たに基本構想に「都市構造の方向性」を設けたことは、意義のあることと考える。 また、少子高齢化が進む中、とりわけ郊外地域の市民生活に配慮する考え方も重要である。
102	7 都市構造の方向性	[方向性]	全体	コンパクト化の方向性ということだが、これまで郊外に宅地造成をしており、高齢者などのことを考えると不自由となることも予想されるので、ただ単にコンパクト化するのはどうかと思う。	
103	7 都市構造の方向性	[方向性]	全体	重要な内容であり、この章が設けられたことに意義があると思う。全体的に盛り込まれているところであるが、まちを住みやすく、コンパクトに適正化していくことが必要である。	
104	7 都市構造の方向性	[方向性]	全体	集約型都市構造を目指すということをまず明確にし、その上で土地利用などの施策を整理するという構造とした方がよいのではないか。集約型都市構造を目指すということをタイトルにしてはどうか。	